

令和8年度
(2026年度)

教育実施計画書

(カリキュラム・ポリシー)

中央工学校

二級建築士専科

目 次

I. 教 育 目 的	1
II. 指 導 目 標	1
III. 指 導 要 領	1
IV. 成績評価方法・基準	2
V. 教 科 構 成 表	3
VI. 教科別教育実施計画書	4
VII. 教科別教科書一覽	16
VIII. 教 具 教 材 一 覽	17

I. 教育目的

二級建築士専科における教育は、修学年限 1 年の学習指導を通じて、学生が卒業後、建築業界の幅広い分野において専門技術者として活躍することを目的とする。二級建築士試験の合格を目指すとともに、建築に関する必要な知識と技術を深化させ、人間涵養教育を通じて、豊かな社会性を備えた技術者の育成を図る。具体的には、学科試験対策および設計製図試験対策に関する一連の学習を通じて、国家試験である二級建築士試験に対応する実践的なスキルを修得する。また、後期の授業においては、これまでに培った知識・技術をさらに発展的に学ぶことを目指す。指導にあたっては、理論的根拠に基づき、建築技術の実務性を重視した「実践的技術者の養成」を学習指導の基本方針とする。

II. 指導目標

1. 二級建築士試験における総合的な知見を身につけ、設計製図が有する総合性に立脚し、建築における「理論と実際」を系統的に理解させることを目指す。計画・法規・構造・施工の各分野に柔軟に対応しうる技術者としての資質を養う。
2. 卒業後、知識の集積と直截性のみならず、的確な状況判断と社会の技術進展に適応できる思考性、応用性を養い、「すぐに役立つ」技術者の養成を目標とする。
3. 建築業界における最新の技術や動向を的確に把握し、それらを学内での演習や課題に積極的に応用することによって、社会に出てから即戦力として求められる実践的な知識と技能の習得を図る。
4. 学習要項で推奨する以下の各種資格を在学中に取得することで、建築技術者としてのスキルを身に付ける。

推奨資格	目標合格率・取得率
二級建築士	100%

III. 指導要領

二級建築士専科は以下のような方針の基に教育指導に当たる。

1. 日夜進展を続ける建築界の社会的・時代的要請に対応できる教育内容の維持とその指導推進に努め、何をどのように教えるべきかを常時検討し、効果的教育手段とその成果を追求する。
2. 工業技術の高度化と共に、各種業務の遂行は個人から複数による共同分担への傾向が顕著である。これに伴い、これからの技術者は集団の秩序と規律のもとに自己を主張しつつ協調して業務に従事することのできる人間性を有することも技術的能力の一つとして評価されることを充分認識した上で日常の指導に反映させる。
3. 各科目の担当者は、二級建築士の資格を取得できるように、基本的能力の育成と応用力の習得に努める。また、設計製図の担当者は、資格試験に合格すべく設計の手法技法を教え、教科目全体の教科構成に留意する。一年間の履修において密接な相互関連を保つよう配慮し指導する。
4. 後期専門科目を通じ、建築士として必要な実務的知見を指導する。単独の建物に留まることなく、地域に目を向けた、広域のまちづくりについて考えさせたい。また、近年の Iot 技術やデジタルソリューションを活用し、最新の設計技術を指導する。

IV. 成績評価方法・基準

学則において、学内の成績評価、履修、卒業要件について規定している。各科で定める一般科目や専門科目は定期試験（レポート課題含む）により成績評価を行っている。実習科目では出席率や課題内容を総合的に評価している。

100点満点における60点以上を合格とし、履修が認定される。各科目で出席率85%未満の生徒についてはその成績評価の対象としない。

令和8年度 二級建築士専科(昼間) 教科構成表

必修 選択 の別	教 科 区 分	教 科 目	授業方法	履修時間		単位
				第1学年		
				前期	後期	
必修	専門科目	建築計画	講義・演習	66		4
		建築法規	講義・演習	66		4
		建築構造	講義・演習	66		4
		建築施工	講義・演習	66		4
		総合対策	講義・演習	66		4
		設計製図	講義・演習	300		20
		建築研究	講義・演習		30	2
		まちデザイン	講義・演習		30	2
		キャリアデザイン	講義・演習		30	2
		設計マネジメント	講義・演習		30	2
		デジタルソリューション	講義・演習		30	2
		グラフィックデザイン	講義・演習		30	2
任意選択	研修科目	国内建築研修	実習・実技	《36》		
		海外建築研修	実習・実技	《72》		
学 期 授 業 時 数				630	180	52
週 数				21	10	

〈 〉は必修選択 《 》は任意選択 ※《 》は授業時間数・単位数に含めない

()内は前後期を定めないので、学期授業時数に含まない授業時間

VI. 教科別教育実施計画書

専門科目	講義	建築計画	1 学年	前期
目的・目標（指標）		目的：二級建築士「学科Ⅰ（建築計画）」の受験に向けた学習を行い、問題の解説と要点を深く理解する。 前期目標：建築計画、環境工学、建築設備、建築史の基本的な問題演習を通して関連分野を包括的に把握し、「学科Ⅰ（建築計画）」の内容を理解する。		
実務家教員の実務経験		設計事務所を主宰運営し、設計監理業に加え、建築関連の執筆実績もあり、設計指導における豊富な知識と経験を有している。		
指 導 内 容				
前 期（6 時限）				
週	教程		教程内容	
1	気候、伝熱、結露		日本の気候、室内気候・熱	
2	日照、日射、採光、音響		日射、採光、音の大きさ・騒音	
3	色彩、原論融合		色の体系、色彩と感覚	
4	空気調和設備、等		空調系統、冷暖房設備	
5	給水設備、排水設備、衛生設備		給水・給湯、設備排水、通気管、便器、浄化槽	
6	電気設備、照明設備、消火設備、防災設備		屋内配線、エレベーター設備、自動火災報知設備、消火設備	
7	設備融合、建築史		設備一般、日本・西洋・近代建築史	
8	計画一般、住宅		住宅、集合住宅、集合住宅地	
9	商業建築		商業施設、店舗	
10	公共建築		教育施設、図書館、展示施設、事務所ビル、福祉施設、医療施設	
11	地域計画、各論融合		計画一般、細部計画	
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
後 期				
週	教程		教程内容	
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				

専門科目	講義	建築法規	1 学年	前期
目的・目標（指標）		目的：二級建築士「学科Ⅱ（建築法規）」の受験に向けた学習を行い、問題の解説と要点を深く理解する。 前期目標：建築基準法、同施行令等の基本的な問題演習を通して関連分野を包括的に把握し、「学科Ⅱ（建築法規）」の内容を理解する。		
実務家教員の実務経験		設計事務所を主宰運営し、設計監理業に加え、建築関連の執筆実績もあり、設計指導における豊富な知識と経験を有している。		
指 導 内 容				
前 期（6 時限）				
週	教程		教程内容	
1	総則		法の目的、法の体系と構成、建築物、特殊建築物、居室	
2	一般構造（1）		構造耐力、耐火建築物等としなければならない特殊建築物、他	
3	一般構造（2）		居室の採光、地階における住宅等の居室、居室の換気	
4	構造強度		木造（土台基礎、柱の小径、横架材、筋かい）、木造（壁量計算）	
5	防火関係（1）		防火壁、防火区画	
6	防火関係（2）		界壁等の防火措置、他	
7	防火関係（3）		内装制限	
8	都市計画区域等の制限（1）		用途地域の指定、他	
9	都市計画区域等の制限（2）		建ぺい率・容積率の制限、他	
10	都市計画区域等の制限（3）		高さ制限、他	
11	雑則等、その他の関係法令		建築士法、都市計画法、消防法、建設業法、他	
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
後 期				
週	教程		教程内容	
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				

専門科目	講義	建築構造	1 学年	前期
目的・目標（指標）		目的：二級建築士「学科Ⅲ（建築構造）」の受験に向けた学習を行い、問題の解説と要点を深く理解する。 前期目標：構造力学、構造設計、一般構造、構造計画、建築材料について、基本的な問題演習を通して関連分野を包括的に把握し、「学科Ⅲ（建築構造）」の内容を理解する。		
実務家教員の実務経験		構造設計事務所に勤務し、構造設計を主たる業務とし、構造関連の指導における知識と経験を有している。		
指 導 内 容				
前 期（6 時限）				
週	教程		教程内容	
1	構造物と外力		基本事項、用語、単位、力のモーメント、偶力のモーメント	
2	静定構造物の応力		単純梁、片持ち梁	
3	静定トラスの応力		静定トラスの基本事項、節点法、切断法	
4	断面の性質		断面一次モーメント、断面二次モーメント	
5	構造材料の応力度と許容応力度		垂直応力度、せん断応力度、曲げ応力度	
6	変形と不静定構造物		不静定構造物概論、たわみ角法、固定モーメント法	
7	荷重、外力、地盤、基礎構造		種類、工法、載荷試験、標準貫入試験	
8	木構造		軸組部材名称、各種接合部納まり、耐力壁、伏図	
9	鉄筋工クリート構造		コンクリートと鉄筋の特徴、構造特性、圧縮と引張強度	
10	鉄骨構造、補強コンクリートブロック造		鋼材の特徴、許容応力度、鋼材の形状	
11	構造計算、建築材料		材の種類、特徴、強度、構造、規格	
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
後 期				
週	教程		教程内容	
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				

専門科目	講義	建築施工	1 学年	前期
目的・目標（指標）		目的：二級建築士「学科Ⅳ(建築施工)」の受験に向けた学習を行い、問題の解説と要点を深く理解する。 前期目標：各種工事の具体的な事例を通して、その施工知識を理解し、基本的な問題演習を通して関連分野を包括的に把握し、「学科Ⅳ(建築施工)」の内容を理解する。		
実務家教員の実務経験				
指 導 内 容				
前 期（6 時限）				
週	教程		教程内容	
1	工事契約、工事監理、施工業務		建設業の仕組み、請負契約書、請負契約書約款	
2	地盤調査、測量、仮設工事		地盤調査、平板載荷、標準貫入試験、既製杭の施工	
3	土工事、基礎地業工事		根切り、床付け、山留工事、山留壁の特徴	
4	鉄筋コンクリート工事（1）		かぶり厚さ、重ね継手	
5	鉄筋コンクリート工事（2）		圧接継手、溶接継手、機械式継手	
6	鉄筋コンクリート工事（3）、鉄骨工事（1）		加工、定着、配筋基準	
7	鉄骨工事（2）、コンクリートブロック工事		種類、施工手順、積上げ規準	
8	木工事、防水工事		防水の各種工法、材料施工	
9	左官工事、タイル・張石工事、塗装工事		モルタル塗り、セルフヘリング材塗り等、材料、施工法、伸縮目地	
10	建具・ガラス、内装、断熱工事		建具の分類と製造過程、工法、ロックウール、グラスウール	
11	ユニット工事、設備工事、用語、機械、積算		電気、給排水衛生、空調、昇降機	
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
後 期				
週	教程		教程内容	
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				

専門科目	講義	総合対策	1 学年	前期
目的・目標（指標）		目的：二級建築士試験の総合模擬試験や、設計製図試験に向けた準備課題を通して、基本を理解し応用力を養う。 前期目標：模擬試験を通じて修学達成度を把握させる。計画・法規・一般構造等の学科授業をもとに、設計手法や作業の迅速化及び、十分な作図表現が出来るようになる。		
実務家教員の実務経験		設計事務所を主宰運営し、設計監理業に加え、建築関連の執筆実績もあり、設計指導における豊富な知識と経験を有している。		
指 導 内 容				
前 期（6 時限）				
週	教程		教程内容	
1	発表課題の検討、設計製図試験の概要（1）		設計製図試験 準備課題演習（1）	
2	設計製図試験の概要（2）		設計製図試験 準備課題演習（2）	
3	模擬試験（1）		模擬試験の実施（1） 試験分析	
4	ゾーニングの進め方		設計製図試験 準備（1）ゾーニング	
5	エスキスの進め方		設計製図試験 準備（2）エスキス	
6	図面の描き方		設計製図試験 準備（3）図面の描き方	
7	模擬試験（2）		模擬試験の実施（2） 試験分析	
8	直前対策（1）		課題演習・模擬試験分析と対策（1）	
9	直前対策（2）		課題演習・模擬試験分析と対策（2）	
10	直前対策（3）		課題演習・模擬試験分析と対策（3）	
11	模擬試験（3）		模擬試験の実施（3） 試験分析	
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
後 期				
週	教程		教程内容	
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				

専門科目	実習	設計製図	1 学年	前期
目的・目標（指標）		目 的：二級建築士設計製図の課題を通して、基本を理解し応用力を習得する。 前期目標：計画・法規・一般構造等の学科授業をもとに、設計手法や作業の迅速化及び、十分な作図表現が出来るようになる。		
実務家教員の実務経験				
指 導 内 容				
前 期（30 時限）				
週	教程		教程内容	
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12	発表課題の検討、設計製図試験の概要（1）		設計製図試験 準備課題演習（1）	
13	設計製図試験の概要（2）		設計製図試験 準備課題演習（2）	
14	ゾーニングの進め方		設計製図試験 準備（1）ゾーニング	
15	エスキスの進め方		設計製図試験 準備（2）エスキス	
16	図面の描き方		設計製図試験 準備（3）図面の描き方	
17	直前対策（1）		課題演習・模擬試験分析と対策（1）	
18	直前対策（2）		課題演習・模擬試験分析と対策（2）	
19	直前対策（3）		課題演習・模擬試験分析と対策（3）	
20	直前対策（4）		課題演習・模擬試験分析と対策（4）	
21	設計製図試験 自己採点（振り返り）		模擬試験の実施 試験分析	
後 期				
週	教程		教程内容	
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				

専門科目	実習	建築研究	1 学年	後期
目的・目標（指標）		目 的：実際の調査に基づき、空間や形態を具体的に分析し、建築物を論理的に読み解く力を養う。建築の在り方に対する分析力を身に付ける。 後期目標：有名建築物の作品研究を通じて、優れたデザイン力と総合的な建築力を身に付ける。		
実務家教員の実務経験		設計事務所を主宰運営し、設計監理業に加え、建築関連の執筆実績もあり、設計指導における豊富な知識と経験を有している。		
指 導 内 容				
前 期				
週	教程		教程内容	
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
後 期（3 時限）				
週	教程		教程内容	
1	建築分析（1）		空間・形態分析演習（1）	
2	建築分析（2）		空間・形態分析演習（2）	
3	建築分析（3）		空間・形態分析演習（3）	
4	プレゼンテーションシート（1）		制作演習（1）	
5	プレゼンテーションシート（2）		制作演習（2）	
6	プレゼンテーションシート（3）		制作演習（3）	
7	プレゼンテーションシート（4）		制作演習（4）	
8	プレゼンテーションシート（5）		制作演習（5）	
9	プレゼンテーションシート（6）		制作演習（6）	
10	プレゼンテーションシート（7）		制作演習（7）	

専門科目	実習	まちデザイン	1 学年	後期
目的・目標（指標）		目 的：現代社会における多様な地域との関わり方を学び、建築を通して暮らし方やまちづくりの必要性について理解を深める。 後期目標：まちづくりの現状や背景について調査・考察し、その中で建築士が果たすべき役割や、建築業界が地域社会において担う責任について理解する。		
実務家教員の実務経験		設計事務所を主宰運営し、設計監理業に加え、建築関連の執筆実績もあり、設計指導における豊富な知識と経験を有している。		
指 導 内 容				
前 期				
週	教程		教程内容	
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
後 期（3 時限）				
週	教程		教程内容	
1	都市計画論（1）		都市計画の返還と住民参加	
2	都市計画論（2）		地域特性を活かした規制・条例と役割	
3	都市計画論（3）		復興まちづくりと建築士の仕事	
4	都市計画の事例（国内外）（1）		事例研究（1）	
5	都市計画の事例（国内外）（2）		事例研究（2）	
6	都市計画の事例（国内外）（3）		事例研究（3）	
7	都市分析 フィールドワーク（1）		課題演習（1）	
8	都市分析 フィールドワーク（2）		課題演習（2）	
9	都市分析 フィールドワーク（3）		課題演習（3）	
10	発表・講評		発表プレゼンテーション	

専門科目	実習	キャリアデザイン	1 学年	後期
目的・目標（指標）		目的：ビジネスマナーを基本に、実際に企業で使用されるビジネス文書や社外文書の種類や構成、目的に応じた書き方を学ぶことで、実務に即した文書作成力を養う。 後期目標：Microsoft WORD・EXCEL の基本操作から応用機能までを段階的に学習し、業務において必要とされる実用的なスキルを身に付ける。		
実務家教員の実務経験				
指 導 内 容				
前 期				
週	教程		教程内容	
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
後 期（3 時限）				
週	教程		教程内容	
1	WORD 基本操作（1）		文書作成の基本（1）ビジネス文書（社外文書）	
2	WORD 基本操作（2）		文書作成の基本（2）画像・表の作成	
3	WORD 応用演習（1）		応用文書（1）	
4	WORD 応用演習（2）		応用文書（2）	
5	WORD 応用演習（3）		応用文書（3）	
6	EXCEL 基本操作（1）		EXCEL の基本操作（1）表の作成・編集	
7	EXCEL 基本操作（2）		EXCEL の基本操作（2）四則演算と関数	
8	EXCEL 応用演習（1）		応用文書（1）	
9	EXCEL 応用演習（2）		応用文書（2）	
10	EXCEL 応用演習（3）		応用文書（3）	

専門科目	実習	設計マネジメント	1 学年	後期
目的・目標（指標）		目 的：建築法規で学んだ、建築基準法の知識を基礎とし、実際の設計業務での活用方法について学習する。設計図面に反映させる実務的な考え方や、法的制約の中で建築計画を成立させるための判断力を養う。 後期目標：建築確認申請書の内容と構成について理解を深め、自らその作成手順を把握できるようになることを目指す。		
実務家教員の実務経験		建築士事務所を主宰運営し、設計監理を主たる業務とし、設計指導における豊富な知識と経験を有している。		
指 導 内 容				
前 期				
週	教程		教程内容	
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
後 期 （3 時限）				
週	教程		教程内容	
1	確認申請（1）		木造 2 階建て（1）概要、関連法規	
2	確認申請（2）		木造 2 階建て（2）図面作成	
3	確認申請（3）		木造 2 階建て（3）図面作成	
4	確認申請（4）		確認申請書作成	
5	確認申請（5）		各種申請書（計画概要書、建築工事届、完了検査）	
6	日影図（1）		概要説明	
7	日影図（2）		時刻日影、等時間日影図	
8	日影図（3）		図面作図	
9	天空率（1）		概要説明	
10	天空率（2）		道路境界線、隣地境界線適用	

専門科目	実習	デジタルソリューション	1 学年	後期
目的・目標（指標）		目 的：BIM を中心とした建設 DX の概要と意義について学び、建設業界におけるデジタル化の流れや、デジタルソリューションの実情を理解する。 後期目標：建築設計・施工・維持管理など、建築業界の各分野における先端技術やデジタルソリューションについて知識を深め、柔軟な発想力と実践的なスキルの習得を目指す。		
実務家教員の実務経験		建築意匠から現場の施工図までの設計図書作成補助を主たる業務とし、用途は住宅から総合病院まで多岐にわたる。		
指 導 内 容				
前 期				
週	教程		教程内容	
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
後 期（3 時限）				
週	教程		教程内容	
1	デジタルソリューション（1）		BIM 研究（1）仮想空間メタバーズ	
2	デジタルソリューション（2）		BIM 研究（2）生成 AI	
3	デジタルソリューション（3）		BIM 研究（3）意匠 BIM	
4	事例研究（1）		事例見学（1）	
5	事例研究（2）		事例見学（2）	
6	事例研究（3）		事例見学（3）	
7	考察（1）		研究レポート作成（1）	
8	考察（2）		研究レポート作成（2）	
9	考察（3）		研究レポート作成（3）	
10	考察（4）		研究レポート作成（4）	

専門科目	実習	グラフィックデザイン	1 学年	後期
目的・目標（指標）		目 的：グラフィックデザインにおける総合的な基礎概念を理解し、その目的や多様な方法論について考察することで、視覚的な表現力の習得を目指す。 後期目標：さまざまな視覚的側面を考察する中で、言葉と視覚表現との関係を理解し、コミュニケーションへとつながるデザイン力を身に付ける。		
実務家教員の実務経験		公共建築から住宅まで意匠設計における実績が多く、デザインにも精通しており、豊富な経験を有している。		
指 導 内 容				
前 期				
週	教程		教程内容	
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
後 期 （3 時限）				
週	教程		教程内容	
1	グラフィックデザイン基礎（1）		デザインの基礎、歴史	
2	グラフィックデザイン基礎（2）		デザイン基礎演習（1） 文字、図形、配色、背景	
3	グラフィックデザイン基礎（3）		デザイン基礎演習（2） 文字、図形、配色、背景	
4	グラフィックデザイン基礎（4）		事例見学（1）	
5	グラフィックデザイン基礎（5）		事例見学（2）	
6	ポスターデザイン（1）		デザイン応用演習（1）	
7	ポスターデザイン（2）		デザイン応用演習（2）	
8	ポスターデザイン（3）		デザイン応用演習（3）	
9	ポスターデザイン（4）		デザイン応用演習（4）	
10	ポスターデザイン（5）		デザイン応用演習（5）	